

【卒業生（レジェンド）紹介 『兄妹でつむぐストーリー』】

合格校 巣鴨中・立教新座中・淑徳中・大宮開成中・城北埼玉中

巣鴨中を熱望していた兄、そして三つ下の妹がいました。兄の受験が終わると同時に妹は小4。本格的な受験勉強が始まるのです。この生徒は不器用ながらも大変努力をする生徒でした。何回も何回もくらいついて努力する、まさに受験生の鏡のような生徒だったと思います。

しかし、中学受験は残酷なもので、第一志望の巣鴨中は不合格。塾としても、お母さんも、本人も全力でやり遂げました。やり遂げただけに、全力を出して敗れたのなら致し方ない、でも！心の中には何とも表現できないような思いが、全員の胸にはあったと思います。そのような無念の中、新年度2月、妹は「新小学4年生」として塾に通い始めることになりました。その際に私はお母さんと顔を合わせ、兄の話もしました。お母さんにも「無念の思い」などいろいろな思いがあったに違いありません。しかし、一通り話し終えた後、こらえきれなくなったお母さんは泣きながら「妹をよろしくお願いします。」と一言。頭を下げられました。私も思わず、涙がこらえきれなくなり、「わかりました」と伝え、瞳からしずくが落ちました。

この時点で兄は第一志望に合格していなかったのです。それでも！いろいろな思いを抱えながら「妹をよろしくお願いします」と言っていたいただいたお母さんの気持ちやそのセリフを私は一生忘れないでしょう。

数日後、巣鴨中から繰り上げ合格の連絡があり、迷わず入学手続き、通い始めることとなったのです。（オチまで完璧なストーリーです。）

このように、中学受験はそれぞれに個々のドラマやストーリーがあります。難関校を受ける子だけではない。それぞれの思いや、それぞれの第一志望、それに向けての葛藤や試練、保護者や本人の思い、様々なものが交錯し、ドラマになるのです。

中学受験生に「その他大勢」「モブキャラ」は存在しないのです。